

平成26年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1. 心豊かで地域愛にあふれた人財の育成 ①地域を教材とした探究的学習と体験的学習 ②地域の行事や事業への積極的参加 ③地域の小中学校との連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ポスターセッション 地域活性化プロジェクト インターンシップ 	[地域領域] (総務課) 地域理解G	<ul style="list-style-type: none"> 地域への興味や関心は高まっているが、主体的に関わり、理解を深めようとする積極性に欠けている。 	【満足度指標】 課題意識を持って地域と関わり、地域への理解を深めた。	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることが <p>A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった</p>	A+Bの割合で判定。 70%未満の場合は改善策を検討する。	参加生徒へのアンケート
	<ul style="list-style-type: none"> 地域ボランティア参加 地域行事参加 校外美化活動 	(総務課) 地域活性化G	<ul style="list-style-type: none"> 地域からの要請に応える形での地域貢献はできているが、参加生徒は限定されている。地域貢献の意義を理解させたい。 	【満足度指標】 取組に参加した生徒が、「地域愛」を育むことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア等の活動によって、「地域貢献」や「地域への感謝」が大切であると <p>A 理解できた B ある程度理解できた C あまり理解できなかった D 理解できなかった</p>	A+Bの割合で判定。 70%未満の場合は改善策を検討する。	参加生徒へのアンケート
	<ul style="list-style-type: none"> 中学生との学習交流 小中学生との交流イベント 中高の連絡協議会 	(総務課) 地域連携G	<ul style="list-style-type: none"> 地域からは、教育、医療、産業を支える人材育成を求められている。 本校生が、地域の小中学生と交流し互いを高めあう機会がほとんど無い。また、学習したことを、地域社会に還元できる機会が少ない。 地域からは、地域の教育力向上のために、本校教員の専門性が求められている。 	<p>【成果指標】 学習交流会を通して、地域の教育についての関心や理解が高まった。</p> <p>【成果指標】 イベントを通して、地域に貢献できたという満足感や達成感を持つことができた。</p> <p>【成果指標】 連携事業を通して、地域の教育力の向上に貢献できた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育系の進路を志望する生徒数が <p>A 10人以上 B 6人以上 C 4人以上 D 2人未満</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習交流やイベント参加生徒のうち、地域に貢献でき、自分も成長できたと感じた生徒の割合が <p>A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満</p> <ul style="list-style-type: none"> 中高連携事業によって、地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合が <p>A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満</p>	<p>C、Dの場合は改善策を検討する。</p> <p>C、Dの場合は改善策を検討する。</p> <p>C、Dの場合は改善策を検討する。</p>	<p>進路志望調査</p> <p>参加生徒へのアンケート</p> <p>教員へのアンケート</p>

平成26年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
2: 課題発見・解決能力、コミュニケーション力の育成 ①多面的・論理的に考察し、適切に表現する学習(普通科) 多面的・実務的に考察し、総合的に実践する学習(総合学科) ②学習課題と連動させた授業 ③グローバルな視点に立った学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習課題(教材)の作成 学習課題と連動させた授業実践 多面的に思考させ、適切に表現させる授業実践 「生徒による授業評価」結果に基づく授業改善 I C T機器の活用 学習時間調査 	[進路領域] (教務課) 学力向上G	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的知識を定着させる指導は成果をあげつつあるが、課題発見・解決能力やコミュニケーション力を高めるには至っていない。 生徒の学力差が拡大しており、個々の学力や習熟度に応じた指導が不可欠である。 高い学習意欲を持つ生徒は少ない。学力と学習習慣を兼ね備えた生徒の育成が必要である。 	<p>【成果指標】 生徒の実態に即した課題やワークシートを活用した授業が行われ、生徒の学力が向上している。</p> <p>【成果指標】 授業で、効果的に生徒に考察する機会や、表現(実践)する機会を設定できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業を受けることにより、思考力、判断力、表現力が向上したと考える生徒の割合が <p>A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善により、学習指導のスキルが高まったとする教員の割合が <p>A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>C、Dの場合は改善策を検討する。</p> <p>C、Dの場合は改善策を検討する。</p>	<p>授業評価</p> <p>教員アンケート</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 世界事象の教材化 外国語教材の活用 ポスターセッション 		<ul style="list-style-type: none"> グローバルな視点で多面的に考察させるという観点で不足していた。 地域の課題発見・解決の視点でポスターセッションが実施されていたが、今後は、よりグローバルな視野に立った課題意識を持たせたい。 	<p>【成果指標】 グローバルな視点で考察することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな視点を持つことができるようになったと感じる生徒の割合が <p>A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>C、Dの場合は改善策を検討する。</p>	<p>授業評価 生徒アンケート</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化プロジェクト 各種プレゼンテーション ビブリオバトル(書評合戦) 		<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化プロジェクトは、総合学科のみの取組であり、普通科生徒は体験する機会がなかった。普通科の生徒にも参加の機会を拡大する。 修学旅行やインターシップの事後学習は、ポスターにまとめて掲示する形で行われており、プレゼン能力をつける取組にはなっていないかった。 	<p>【満足度指標】 取組を通して、自分の考えをまとめ、相手に伝えることができたようなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行事等を通じてコミュニケーション力を高めることが <p>A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった</p>	<p>A + B の割合で判定。 70%未満の場合は改善策を検討する。</p>	<p>生徒アンケート</p>

平成26年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
3. 普通科・総合学科の相乗効果による教育力の向上 ①普通科と総合学科が協働した取組 ②部活動の活性化 ③3年間を見通した進路指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化プロジェクト ・チャレンジウォーク ・全校挨拶練習 ・登校指導 ・教師力向上研修 	[進路領域] (進路指導課) キャリア教育G	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科は論理的思考力、総合学科は総合的实践力を高める指導の改善に努め、相乗効果を生み出すための新たな取組みを考える必要がある。 ・総合学科の取組であった挨拶練習を普通科生徒にも取入れ、来校者から「挨拶のできる学校」との評価を得ている。 ・より早期に生活習慣を見直し、望ましいものに改善させることが、学習習慣の確立にも繋がっている。 	【満足度指標】 各種行事等の企画・準備・運営において、両科の生徒が互いの特性を発揮できた。 【満足度指標】 生徒一人ひとりが、「自分は挨拶をしている」と評価できる。 【成果指標】 登校指導により、不注意による遅刻者数が前年より減少した。	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科と総合学科の生徒が協働して行事に取り組むことが A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった <ul style="list-style-type: none"> ・自分はTPOに応じて、適切な挨拶が A できている B ある程度できている C あまりできない D できない <ul style="list-style-type: none"> ・不注意による遅刻者数が、前年に比べて A 10以上減少 B 10%(未満)減少 C ほぼ同数 D 10%以上増加 	A+Bの割合で判定。 70%未満の場合は改善策を検討する。 A+Bの割合で判定。 70%未満の場合は改善策を検討する。 C・Dの場合、改善策を検討する。	生徒アンケート
	<ul style="list-style-type: none"> ・部活顧問－担任交換会 ・地域指導者の活用 	(生徒指導課) 学校活性化G	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動をやめたり、活動が滞りがちな生徒が見られる。 	【満足度指標】 部顧問や担任の支援により、積極的に部活動に参加できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に部活動に参加することが A できている B ある程度できている C あまりできていない D できていない 	A+Bの割合で判定。 70%未満の場合は改善策を検討する。	生徒アンケート
	<ul style="list-style-type: none"> ・「3年9期の取組」 ・学習合宿 ・1日学習会 ・難関大学体感旅行 ・8校連携事業 ・オープンキャンパス参加 ・大学模擬授業 ・「第1志望実現の取組」 ・インターンシップ ・キャリア教育講演会 ・資格、検定、面接支援 ・課題研究発表会 	(進路指導課) キャリア教育G	<ul style="list-style-type: none"> ・入学生の学力低下と学力差の拡大が見られる。進路実現に向け、より計画的で組織的なキャリア教育と学習支援が必要である。 ・これまで蓄積した、模試を指標とした取組が、十分に進学指導に生かされていない。 ・第1志望の企業の内定率を高めるため、必要な学力を担保し、キャリア意識を高める支援が必要である。 	【成果指標】 模試結果を活用したPDCAにより、合格の可能性が高まっている。 【成果指標】 計画的な就職指導により、第1志望の内定率が高まった。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の模試より合格の可能性が高まった(模試成績を向上させた)生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 <ul style="list-style-type: none"> ・第1志望の内定率が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 	C・Dの場合、改善策を検討する C・Dの場合、改善策を検討する	模試結果 可否結果